朗詠曲

東岸（とうがん）

（甲）
チ、ヒ、全、 全、、、七全、生全、 全、、ヒ、全、 全、、、ヒ、全、生全、生全、
とう　がん　せい　や　そ　く　がんのオーオ　ーーーオ

ヒ、、○チ、ヒ、、オレ、ヒ、、○ヒ、、○ヒ、、オレ、ツレ、、、○、
（3中）（呂甲）　（3中）（呂甲）　（3中）（呂）
ち　し　な　ぎ

レ、、オレ、ツレ、、○チ、ヒ、全、 全、、、七全、生全、ヒ、、、○チ、ヒ、、オレ、
（3中）（呂）
お　な　か

チ、、○レ、、オレ、ツチ、ヒ、、、○ヒ、ヒ、、オレ、ツレ、、○、
（甲）　（3中）（呂甲）　（3中）（呂甲）
ら

ツレ、、、○レ、、オレ、、○ツレ、ツロ、ツロ、ツロ、り、、、○、
（呂）
ほ

チ、り、チ、、○、二の句（甲）レ、、、ツロ、ツレ、、○レ、チヒ、、、○ヒ、ヒ、、
（3）（呂）

（甲）
（3中）（呂甲）チ、レ、ツレ、、、○、レ、オレ、、○ツレ、、○、
く　しの　うめ

ロ、ツロ、ツロ、り、、、○、ウ、り、、ウレ（3）甲チ、、、○、二

◆**朗詠**（東岸）＝平安中期に漢詩文の隆盛と仏教音楽、声明との影響を受けてできた、漢詩文の吟誦高吟のための声楽です。

催馬楽のような厳格な形式はありませんが、言語の表情を表現するのを重視するため、束縛力の大きい拍子を捨てました。

朗詠の形式
- 声楽
  - 一ノ句＝音頭と附歌
  - 二ノ句＝同じ
  - 三ノ句＝同じ
- 伴奏（旋律）＝横笛、ひちりき、笙

現在、行われている詩吟の祖先と考えられます。